

自己有用感

与えることは最高の喜びなのだ。他人に喜びを運ぶ人は、

それによって自分自身の喜びと満足を与える。 ウォルト・ディズニー

みなさん「自己有用感」という言葉は知っていますか？

「自己有用感」とは、「他人の役に立った、他人に喜んでもらった・・・など、自分が所属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということをも自分自身で認識すること」を言います。



例えば、委員会活動や教科リーダーの仕事など、これらを全力で行うことが、学校やクラスを良くしていくことにつながります。また、掃除や給食当番でも、あなたの頑張りがクラスの環境を良くしたり、楽しい食事の時間を生み出します。

現在、どのクラスも合唱練習に熱が入っていますが、これも一人一人の歌声が素敵な合唱を生み出しています。ここでも、大きな声で歌える人がいてくれることで周りの仲間も歌いやすい雰囲気になり、歌が上手い人がいてくれることでみんなの合唱の手本につながります。

では、あなたはどのような事でクラスの役に立つことができますか？

「ありません・・・」そんなことは**絶対にありません。**

人には誰にも長所もあれば短所もあります。長所を生かすこともできれば、短所を武器にする人もいます。

先日のワールドカップラグビーでは、日本は惜しくも負けてしまいましたが、歴代最高のベスト8の快挙を成し遂げました。以前は日本代表も「体格が小さい」ということから世界では絶対に勝てないと言われてきました。しかし、元日本代表ヘッドコーチ（現イングランドヘッドコーチ）のエディ・ジョーンズ氏は体が小さいことを一つの条件にして、大きい選手より、機敏に動けること、低い姿勢を取りやすいこととして武器に変え、前回大会でも南アフリカに勝つなど、スポーツ史上最大の番狂わせと言われるほどの結果を出しています。

（今回のラグビー日本代表も、選手一人一人がチームのために責任を果たし、出場選手が控え選手に感謝の気持ちを伝える場面が多かったことも自己有用感の高いチームであることが感じられました）

それぞれがクラスのために何事にも前向きに取り組み、仲間の良い面を見つけたり、仲間の頑張りを認めていくことで、自己有用感の高い素敵なクラスをつくりましょう。

☆おうちの方へ（自己有用感を高めるために）☆

ご家庭でも、子どもたちが何かに挑戦したり、手伝いをした時には、「当たり前」と思わず「ありがとう」「がんばったね」と頑張りを認めていただけたらと思います。

